

# 東京農業大学の沿革

## 榎本武揚と横井時敬

創設者は、明治の英傑榎本武揚だ。明治政府で外相、文相、農商務相などの要職を歴任した榎本は、明治24年（1891）、東京に「私立育英黌」を設立した。その農業科が東京農学校、東京高等農学校と名を替えつつ、拡充の歴史を歩み、今日の東京農業大学となる。

東京農学校時代の明治28年、評議員として参画したのが、明治農学の第一人者横井時敬だった。「人物を畑に還す」「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」と唱えて、「実学」による教育の礎を築き、東京農業大学の初代学長を務めた。本学の「生みの親」は榎本、「育ての親」は横井である。

## 傘下に東京情報大学

東京農業大学は、農学部、応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部、生物産業学部、短期大学部の6学部21学科からなり、大学院は2研究科19専攻体制が整っている。世田谷、厚木、オホーツク（北海道・網走）の3キャンパスに学生・院生ら約13,000人が学んでいる。

学校法人東京農業大学の傘下に、東京情報大学（千葉）がある。総合情報学部1学科、大学院1研究科で、学生・院生は約1,900人。傘下には、他に併設校として農大一高／中等部、同二高、同三高／附属中学がある。

学校法人東京農業大学戦略室

# 「食と農」の博物館で2企画展を開催中

■「緑化作品にみる『農大造園家』90年の軌跡、そして明日へ」～明治神宮の森から首都高速大橋ジャンクション「目黒天空の庭」まで～ 地域環境科学部造園科学科の前進である日本で初めての高等教育機関「東京高等造園学校」創立（1924年）から約90年。多くの卒業生が日本の緑の建設、保全に貢献している。企画展では「施設空間の緑化」「道路緑化」「屋上緑化」「森造り、緑の再生・復元」などのテーマ別に企画・設計・施工に携わった緑化作品をパネル、模型で紹介している。9月16日まで。

■「日本の森林復旧」展ー日本の山はハゲ山だったー 国内の多くの山々は、経済発展のためのエネルギー源や資材として乱伐されたが、戦後の緑化や植樹活動によって森林が再生された。同展では、ハゲ山当時の様子から緑の山に回復した姿を写真でたどることができる。7月15日まで。

問い合わせは東京農大「食と農」の博物館（世田谷区上用賀2-4-28）TEL03-5477-4033



展示されている首都高速大橋ジャンクション「目黒天空の庭」の模型



写真でたどる森林復旧展